

## 「燃えるごみの排出量に応じた費用負担の検討」に関する審議会意見要旨

平成30年1月から9月に開催しました本審議会における議題「燃えるごみの排出量に応じた費用負担の検討（以下「燃えるごみ有料化」という。）」に関する委員の主な意見をまとめました。

分類	意見要旨
市民周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの減量は、子どもや若い世代に「物を大切にする」、「ごみを分別する」ことを啓発しなければならないと思う。</li> <li>・ 市民団体や自治会などにごみ減量の協力を求める。</li> <li>・ あさびーなどのキャラクターを活用したごみ分別の取り組みを検討する。</li> <li>・ ごみ処理に費用が掛かることが理解されれば、不適切な分別や排出は減少すると考える。</li> <li>・ 市が燃えるごみ有料化を検討していることを多くの市民は知らないと思うので、まずは市民周知を行い、ごみ減量の意識を持ってもらうことが第一と考える。</li> <li>・ 3キリ（水キリ、使いキリ、食べキリ）を市民に周知する。</li> </ul>
資源化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの削減だけでなく、市民にリサイクル・リユースを啓発することが大事である。</li> <li>・ 回収された資源ごみの再生利用方法をもっと周知すれば、市民の意識も変わると思う。</li> <li>・ 資源化された紙や生ごみを堆肥化した肥料の使用などに行政が率先して取り組めば、市民の理解を得やすいと思う。</li> </ul>
事業系ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業系ごみの家庭ごみ集積所への排出を防ぐ方法を検討する必要がある。</li> </ul>
燃えるごみ有料化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみは減ってきているので、燃えるごみ有料化ありきではなく、検討していく必要がある。</li> <li>・ 燃えるごみ有料化は、ごみ減量化の方法の一つとして検討しつつ、啓発など別の方法も検討する必要がある。</li> <li>・ 燃えるごみ有料化で得た収入の用途を明示すれば、市民理解を得られるのではないか。</li> <li>・ 燃えるごみ有料化の目的が発生抑制であることが理解されなければ、お金を出せば大量のごみでも処理してもらえると捉える市民が出てくるのではないか。</li> <li>・ 燃えるごみを有料化した場合、一時的にごみは減少しても、いずれ元に戻ると思う。</li> </ul>

(裏面へ)

分類	意見要旨
目標値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本計画平成35年度目標値は絶対達成しなければいけないのか。目標値達成のためだけに燃えるごみ有料化を検討するのは疑問に感じる。</li> <li>・ 燃えるごみの分別徹底と発生抑制を意識してもらうためには、目標値は必要と思う。</li> <li>・ ごみは毎年減少しているため、基本計画の目標値は到達できると考える。</li> </ul>
ごみ処理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ処理施設の大規模修繕などでごみ処理費用が増加するため、燃えるごみ有料化の導入を判断すべきである。</li> <li>・ 概算でもよいので、ごみ処理施設の修繕費用を市民に示す。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他市が燃えるごみ有料化を導入しているからではなく、本市に燃えるごみ有料化が必要か議論が必要である。</li> <li>・ 本市は県内で9番目に燃えるごみ排出量が少ないのに、燃えるごみ有料化を実施する必要があるのか。</li> </ul>